

研究資料

高隈演習林植物目録 - 追加 (1)

馬田英隆¹⁾・芦原誠一¹⁾・内原浩之¹⁾

1) 鹿児島大学農学部附属演習林

The plants of Takakuma Experimental Forest - Supplement (1)

UMATA Hidetaka¹⁾, ASHIHARA Seiichi¹⁾, UCHIHARA Hiroyuki¹⁾

1) Kagoshima University Forests, Faculty of Agriculture, Kagoshima University, Korimoto 1-21-24, Kagoshima 890-0065, JAPAN

平成17年4月13日 受理, Accepted Apr 13, 2005

はじめに

本題は高隈演習林の植物相について、迫 (1968)、迫・黒木 (1990) が報告した後に新たに発見された植物を追加するものである。本稿では無葉緑植物のヤッコソウとクロヤツシロランを報告する。

1. ヤッコソウ (*Mitrastemon yamamotoi* Makino)

ヤッコソウはイタジイ、ツブラジイなどのシイ属の樹木の根に寄生するラフレシア科 (*Rafflesiaceae*) の無葉緑植物で、四国 (徳島県, 高知県)・九州 (宮崎県, 鹿児島県)・屋久島・種子島・奄美・沖縄に分布し、日本固有の種となっている (渡辺, 1982)。各県では天然記念物に指定している市町村が多い。鹿児島県のレッドデータブック (鹿児島, 2003) では準危惧種に分類されている。2005年1月14日に発生を確認した。

発生場所

鹿児島大学農学部附属高隈演習林 31 林班

発生習性など

30~40 個体がイタジイ古木の根元に発生していた。渡辺 (1934) は本種の発生習性として水平な個所ではリング状になって発生すると述べているが、調査地は斜面で個体の多くは分散して発生していた。しかし、やや平坦な場所では図2が示すように列状に発生している集団があった。一般に2月を過ぎると黒褐色になって枯死している個体を見ることが多いが、3月14日の再調査では褐色を保ったままの個体が少なからずあった。果実から種子を掻き出し、渡辺 (1933) に従って顕微鏡下で調べた結果、充実種子を観察できたがその数はきわめて少なかった。

2. クロヤツシロラン (*Gastrodia pubilabiata* Sawa)

本植物はアキザキヤツシロラン *Gastrodia confusa* Honda et Tuyama に近縁の種で、分類上の発表が比較的新しい。アキザキヤツシロランの発表が1940年 (津山) であるのに対し、本種は1981年 (澤) である。そのため、アキザキヤツシロランとして同定されていたものの中には少なからず本種が含まれていることになる。本大学の総合研究博物館の標本については、本種の発表者である澤 完氏がアキザキヤツシロランの中の数点をクロヤツシロランとして再同定した。

本種は高隈演習林では1986年に筆者の一人馬田が初めて採集し、その時の標本は総合研究博物館に保存されているが、高隈演習林の植物リストに加えられていなかったので報告することにした。オニノヤガラ属 *Gastrodia* は高隈演習林ではナヨテンマ *G. gracilis* のみが知られていたもので、クロヤツシロランを加えることによって2種が産することになる。

本種はわが国のレッドデータブック (環境省, 2000) では絶滅危惧 I B 類に、鹿児島県のレッドデータブック (鹿児島県, 2003) では絶滅危惧 I に分類されている。

発生場所

鹿児島大学農学部附属高隈演習林 7, 8 林班

発生習性など

10~11月の秋期に広葉樹林、広葉樹林とダイミョウチク竹林の混交林などに群生もしくは散生して発生する。一般に無葉緑ランの無菌培養は困難であるが、本種は例外的に無菌培養が可能で、根菌が無くても発芽・生長する (馬田・橋本・山内, 未発表)。



図-1,2. ヤッコソウ. 高隈演習林.
(撮影日)2005年1月14日.



図-3. 果実をつけたクロヤツシロラン. 高隈演習林.
(撮影日)2004年11月3日.

参考文献

- 鹿児島県 (2003): 鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動物 植物編-鹿児島県レッドデータブック-
環境庁 (2000): 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-8 植物I (維管束植物)
迫 静男 (1968): 高隈演習林植物調査報告. 鹿大演報 1:38-139.
迫 静男・黒木晴輝 (1990): 高隈演習林自生木本目録. 鹿大演報 18:69-88.
澤 完 (1980): 高知県中部のラン科植物. 高知大学学術研究報告, 自然科学, 29:59-71.
津山 尚 (1940): 中井猛之進 (監修) 東亜植物図説 3(3): 245-248, pl. 89. 春陽堂, 東京.
渡辺清彦 (1933): やつこさうノ生態 (第一報) 果実と種子. 植物学雑誌 47(563): 798-805.
渡辺清彦 (1934): やつこさうノ生態 II 栄養繁殖. 植物学雑誌 48(571): 467-477.
渡辺清彦 (1982): ラフレシア科, 日本の野生植物 草本 II 離弁花類 p110 (pl. 108)平凡社, 東京.